

江戸時代から続く奇祭「ジャガマイタ(蛇まつり)」  
五穀豊穡と疫病退散を祈願するお祭り



平成5年から続く「小山バルーンフェスタ」  
様々な色・形のバルーンが小山市の空を舞う



大谷分署の皆さん



ユネスコ無形文化遺産・高級絹織物「結城紬」



小山市原産の名桜  
オモイガワザクラ  
(思川桜)



桑分署の皆さん



豊田分署の皆さん



間々田分署の皆さん

おやまブランド  
公認キャラクター  
「開運★おやまくま」



(山) くまくま〜  
顔が「小山」の  
文字になる



小山市消防署の皆さん



野木分署の皆さん



# 全国に誇れる安全・安心な街づくりを目指す —小山市消防本部—

小山市は、栃木県の南端に位置し、東は茨城県結城市、筑西市に接し、西は栃木市、南は野木町に、北は栃木市、下野市にそれぞれ接し、地形は一带に平坦地をなし、その中央を北から南へ利根川水系渡良瀬川支流の思川（一級河川）が貫流している。

この思川は関東地方で最も早くアユ釣りが解禁となる河川としても知られ、県内外から多くの釣り人が足を運ぶ。

この思川を挟んで西一帯は、緑連なる田園地帯となって県南有数の穀倉地帯をなしています。市の東側の地帯は、やや高地をなして市街はこの地帯に開けている。

気候は、やや内陸性をおびた太平洋側気候を示し、おおむね温暖で住みよい気候である。また、冬季の乾燥した北西の強い季節風「男体おろし」や夏季にみられる激しい雷はこの地域の特徴的な風物のひとつである。

古くから宿場町として開けた小山市は、市の南北に通ずる国道4号及び新国道4号、東西に通ずる国道50号をはじめ、それらに沿って走るJR宇都宮線、JR水戸線、JR両毛線及び、昭和57年6月に開通した東北新幹線の停車するJR小山駅があり北関東における交通の要衝地をなし、さらに近年、各種企業の進出が図られ、8か所の工業団地（総面積:約300ha、工業用地面積:約240ha）が整備されるなど、現在、市人口16万余を有している。

市街は主として、国道4号及び国道50号に沿うように発達し、その中心部206.1haは、準防火地域の指定を受け、防火体制の強化が図られている。

小山市原産の思川桜は、淡い紅色の可憐な花が咲き、その枝ぶりもやわやわと優しいのが魅力の名桜です。春には市内1,600本の思川桜が咲き乱れ、暖かな春を運んでくる。

また、最古の歴史を有する高級絹織物「結城紬」は、奈良時代には当時の常陸国の特産物として朝廷に

小山市消防本部管内区域



上納された布（あしぎぬ）は紬の原形とされ、現在、奈良・正倉院に保管されている。2010年には、ユネスコ無形文化遺産にも登録され本場結城紬の名は全国に知られるところとなった。

さらに市南部にある渡良瀬遊水地は本州以南では最大のヨシ原を擁する低層湿原で、トネハナヤスリ（利根花鱧）をはじめ植物の絶滅危惧種の宝庫である。夏の終わりには南の国に戻るツバメが10万羽以上も集結し、チュウヒ（沢鶯）をはじめとするワシタカ類の越冬地としては日本最大級でもあり、平成24年7月にラムサール条約湿地としてはれて登録された。

このほか、記憶に新しい2012年ロンドンオリンピックで大活躍した萩野公介選手（競泳男子400m個人メドレー銅メダル）や海老沼匡選手（柔道男子66kg級銅メダル）は小山市の出身でもある。

今回は、小山市消防本部を訪問し、宇賀静男消防長に小山市の取組を伺った。（平成26年3月取材）

## 小山市・野木町の防火防災を担う

本誌 小山市消防本部についてお聞かせください。

宇賀静男小山市消防本部消防長 当消防本部は、平成25年4月1日現在、常備消防の消防本部（職員198人）と非常備消防の消防団員（635人）で構成され、それぞれ消防活動上有効に消防署（小山市消防署）、分署（大谷分署、間々田分署、桑分署、豊田分署、野木分署）、消防団（1本部、5方面隊、18分団）を配備し、消防防災活動を行っております。

また、昭和60年4月、野木町から地方自治法の規定に基づき消防事務の委託を受け、火災や事故・地震などの災害や有事への備えなどの消防事務を実施しています。

当消防本部及び消防署には、水そう付消防ポンプ自動車を始め、化学消防ポンプ自動車・梯子付消防ポンプ自動車等15種類37台と人命救助に必要な救助艇などを配備しています。また、消防団には団本部車（広報車）及び普通消防ポンプ自動車等40台を配置し災害や事故に備えています。

消防用水利は、消防活動上欠くことのできない重要な施設ですが、管内には、消防活動上有効に使用できる川、沼等の自然水利に恵まれておりません。従って、人工的に造った防火水そうや消火栓等が消防活動のための重要な水利となっています。このように、消防装備の充実整備を図っていますが、建物の大規模化、高層化、社会構造の複雑多様化、事故が発生すると甚大な被害を及ぼす危険物・ガス施設等の生活圏への建築、また交通事情の変化などによる各種災害発生



平成25年9月17日に業務を開始した小山市消防本部の新庁舎と訓練塔  
鉄骨造り3階建て 敷地面積6,066.95㎡

の危険性は、急速かつ着実に増加しています。

これらの災害に充分対応できる消防体制の整備強化が、小山市・野木町の防火防災を担う当消防本部の今後の課題とされています。

本誌 昨年9月に業務を開始した新庁舎についてお聞かせください。

宇賀消防長 昭和23年8月

に県内最初の自治体消防（当時は小山町消防本部）として発足し、65年目を迎えた昨年9月、新消防庁舎竣工の運びとなりました。

庁舎建設に際し、4つの基本方針を掲げ、新庁舎の建設にあたりました。

1つめは、耐震・耐火性能と備えるほか、非常用発電設備などの災害時のバックアップ機能を強化し、更に高機能消防指令センターを整備をするなど**市民の安全で安心な暮らしを支える拠点となる庁舎**。

2つめは、体の不自由な方や高齢者の方も利用しやすいよう庁舎内をバリアフリーとし、多目的トイレ（人工排泄処理等のオストメイト対応）やエレベーターを設置するなど**市民に開かれた庁舎**。

3つめは、市民、自主防災組織、消防団等の自助・共助力量向上のための各種講習会開催を可能としたスペースを確保した大会議室を設置するなど**地域防災に適応できる庁舎**。

最後の4つめは、消防職・団員の消防技術向上のため、消火訓練・ポンプ操法訓練、高・低所からの救出訓練、煙中検索訓練、閉所空間での救出訓練など様々な災害を想定した訓練施設を設置するなどの**消防力の向上が行える庁舎**の4つ基本方針をコンセプトに建設を進めました。

また、新庁舎建設に伴い、高機能消防指令センター、消防救急デジタル無線も整備しました。（詳細はP.24参照）

## 救急出場件数、搬送人員が減少

本誌 貴消防本部の救急の動向はいかがでしょう。



宇賀 静男  
小山市消防本部消防長